



盛岡市玉山区

いもださわた4いせき

茅田沢田IV遺跡

現地説明会資料

平成23年8月27日(土) 10:30~



縄文時代中期末の大形住居



縄文時代後期初めの配石遺構



平安時代の住居



矢じりが供えられたお墓



調査開始3年目の今年は今から約8000年前のムラ（縄文時代早期なかごろ）が全貌をあらわしました。

調査している私たちは



公益財団法人 岩手県文化振興事業団
Iwate Cultural Promotion Agency

埋蔵文化財センター です。

縄文時代早期の住居跡群

今回の調査では、縄文時代早期の中ごろ(約8000年前)を中心とする、多数の住居跡が見つかりました。(今年度検出35棟、3カ年合計約50棟)

このころの住居跡の発見例はまだまだ少なく、芋田沢田IV遺跡の住居跡群は、家の構造の変化や、ムラの姿のうつり変わりを解き明かす手がかりになるものと期待されます。



円形の住居は直径5～6mほどで、壁ぎわにそって柱穴が並びます。柱は内側に傾けてすえられたようです。

床の中央を一段掘り下げて炉(いろり)をついているものもありますが、炉を持たないものが大半です。

四角形のもの、3～4m四方で、柱の並びは明らかではありません。床の中央に炉をもつものもありますが、ごくまれです。

なお、いくつかの住居では壁際で火をたいたあとがみつかっています。住人が炉として使ったのか、住居跡にできた凹地で火をたいて何らかの作業をしたのか、検討しています。

芋田沢田IV遺跡の調査をおえて

3カ年にわたった芋田沢田IV遺跡の調査は今回で終わりとなります。その成果をふりかえってみましょう。

平成21年度には、約4000年前にあたる縄文時代中期末～後期初めのムラが姿をあらわしました。直径約11mの大形住居と複数の一般住居からなる中期末のムラは、後期に入り様変わります。柄鏡形の配石遺構や四角に並ぶ大形柱穴列、大人や子供の墓など、当時の人々の「祈り」に関連するとみられる痕跡が目立つようになることがわかりました。

平成22年度には、柄鏡形配石遺構の下部から、矢じりがそなえられた墓が見つかりました。遺跡の中心に位置するこの見事な構造物は、墓の主に対するムラ人たちの崇敬の念によってつくりあげられたものといえるでしょう。

この年は、さらに下の地層にまで調査がおよび、今から約8000年前、縄文時代早期の集落の存在が確認されました。そして今年度、予想を超える密度で住居跡が分布する様子が明らかになったのです。

ながい歴史の流れのなかで、この地は繰り返した人々の暮らしの舞台となってきました。これまで、そしてこれからも、岩手山と北上川に見守られながら、私たち人間の営みは途切れることなく続いていきます。芋田沢田IV遺跡の調査が、今に生きる皆さんの郷土に対するご理解の一助となりましたなら、望外の喜びです。

最後になりましたが、私どもの調査に対し、多大なるご協力を賜りました地元の皆様はじめ、関係各位に心より御礼申し上げます。